



FUDO TETRA

株式会社不動テトラ

2020 年 3 月期決算説明会

2020 年 6 月 1 日

イベント概要

[企業名]	株式会社不動テトラ		
[イベント種類]	決算説明会		
[イベント名]	2020 年 3 月期決算説明会		
[決算期]	2019 年度 通期		
[日程]	2020 年 6 月 1 日		
[ページ数]	35		
[時間]	10:00 – 11:00 (合計：60 分、登壇：35 分、質疑応答：25 分)		
[開催場所]	103-0026 東京都中央区日本橋兜町 3-3 兜町平和ビル 3 階 第 3 セミナールーム (日本証券アナリスト協会主催)		
[会場面積]	145 m ²		
[出席人数]			
[登壇者]	3 名		
	代表取締役社長	奥田 眞也	(以下、奥田)
	取締役執行役員副社長 管理本部担当	山下 晃	(以下、山下)
	常務執行役員 管理本部長	北川 昌一	(以下、北川)

サポート

日本	03-4405-3160	米国	1-800-674-8375
フリーダイヤル	0120-966-744	メールアドレス	support@scriptsasia.com

登壇

司会：皆様、おはようございます。ただ今から、株式会社不動テトラ様の IR ミーティングを開催いたします。

なお、本日はコロナ自粛緩和後の初めてのセミナーでございます。いわゆる三密を避けるため、会社様からのご意向によりまして、セミナー終了後の名刺交換は行わないことといたします。それに代えまして、入場時に皆様には、本日ご登壇の方々の名刺を事前にお渡ししておりますので、ご理解をいただければと思います。

それでは、会社様からお迎えしているお三方をご紹介します。代表取締役社長、奥田眞也様。

奥田：奥田でございます。よろしくお願いいたします。

司会：取締役執行役員副社長、管理本部担当、山下晃様。

山下：山下でございます。よろしくお願いいたします。

司会：常務執行役員、管理本部長、北川昌一様。

北川：北川でございます。よろしくお願いいたします。

司会：本日は、奥田社長様からご説明をいただきました後、質疑応答とさせていただきます。それでは、奥田様、よろしくお願いいたします。

奥田：おはようございます。社長の奥田でございます。

新型コロナウイルス感染拡大、緊急事態宣言が解除になりまして、まだ数日の中で、月曜日の午前中ということで、本当に慌ただしい中ご参加をいただきまして、誠にありがとうございます。また、日頃から弊社の社業にご理解とご支援をいただいております。重ねて御礼を申し上げます。

マスクをしていただきながらの説明会ということで、少し窮屈かとは思われますが、1時間、よろしくお願いいたします。

それでは、まず、ご説明に入ります前に、お手元に配布させていただいております資料のご確認をお願いいたします。

サポート

日本	03-4405-3160	米国	1-800-674-8375
フリーダイヤル	0120-966-744	メールアドレス	support@scriptsasias.com



本日、説明に使わせていただきます 2020 年 3 月期決算説明会という資料、その他に 2020 年 3 月期決算短信、2020 年 3 月期決算補足説明資料、そして CSR レポート、以上を参考資料でお手元に配布させていただいております。

それでは、順番にご説明をさせていただきます。

中期経営計画の進捗状況



株式会社 不動テトラ

中期経営計画（2018～2020年度）の概要

○基本方針

- ①有形無形の経営資源への戦略的投資及び収益基盤の多様化に取り組む
- ② ESG を基本とした CSR 経営により、ステークホルダーから一層信頼される会社づくりを目指す
- ③ 資本コストを意識した経営管理体制を構築する

○数値目標（連結ベース）

	中期経営計画 (2018～2020年度)	2018年度の成果	2019年度の成果
業績目標	3か年での営業利益 100億円以上	営業利益 35億82百万円	営業利益 44億97百万円
資本効率目標	自己資本当期純利益率 (ROE) 8%以上	自己資本当期純利益率 (ROE) 9.6%	自己資本当期純利益率 (ROE) 10.4%
株主還元目標	総還元性向 50%程度	総還元性向 49.7%	総還元性向 49.6%予定

2

まず、2020 年 3 月期の決算の中身を見ながら、私ども、2018 年～2020 年の中計 3 カ年をスタートさせて 2 年目がちょうど 3 月に終わったところでございます。中計の中で、どういう位置付けで 1 年が終わったかということについて、簡単にご説明をさせていただきます。

まず、今回進めております中計 3 カ年ですが、以前の中計と違う点では、10 年という長期のスパンの中の最初の 3 カ年ということで、基盤整備の 3 カ年という形での位置付けでスタートをさせております。

基本方針については、以前の説明会でもご説明をさせていただきました。しっかりと経営資源への戦略投資を行いながら、収益基盤の多様化に取り組む。そして、ESG を基本とした CSR 経営によって、ステークホルダーの皆様から一層信頼される会社づくりを目指す。三つ目としまして、資本コストを意識した経営管理体制を構築する。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



3

こういった基本方針を基に、数値目標といたしまして業績目標、3カ年で営業利益 100 億円以上。資本効率目標、ROE8%以上。株主様への還元目標として、総還元性向 50%程度と、この三つの数値目標を掲げて 3 カ年に臨んでおります。

図表は、2018 年度、昨年度 2019 年の成果をお示しをしております。2019 年度の結果としましては、営業利益 44 億 9,700 万円、ROE10.4%、総還元性向、ここにつきましては株主総会での決議事項で、予定ということで挙げさせていただいておりますが、49.6%、約 50%を予定しております。これは自己株取得と配当を合わせた数字とご理解をいただきたいと思います。

全社業績（連結）



株式会社 不動テトラ

当社グループの業績につきましては、
受注高は707億円（前期比18.3%減）となりましたが、期首の手持ち受注高が772億円と高水準な状況であったことから、売上高は712億円（前期比6.1%増）と増収となりました。
また、利益面では工事採算性を良好な状態で維持できたことや、ブロック事業が増収に転じたことにより営業利益は45億円（前期比25.5%増）、経常利益は44億円（前期比21.0%増）、親会社株主に帰属する当期純利益は27億8千万円（前期比13.9%増）とそれぞれ増益となりました。

（単位：億円）

指標	中期経営計画			実績	実績
	2018年度	2019年度	2020年度	2018年度	2019年度
期首手持ち受注高	578	548	552	578	772
受注高	670	710	715	866	707
売上高	700	705	720	671	712
営業利益	32.0	33.5	34.5	35.8	45.0
（率）	4.6%	4.8%	4.8%	5.3%	6.3%
当期純利益	21.0	22.5	23.0	24.4	27.8
ROE	8.3%	8.5%	8.4%	9.6%	10.4%

3

それでは、昨年度、当社グループの業績につきまして、ご説明をします。

2019 年度、スタートに当たりまして、期首の手持ちの受注高が 772 億円と、かなり多い状況でのスタートとなりました。全体的な受注としましては 707 億円ということで、前期 866 億円に比べますと、18%程度の減となりました。ただ、この 2018 年度が新幹線の大型工事関連の受注が大きく反映された数字でございますので、結果的にはほぼ 2019 年度についても、計画していた工事については受注が積み上がったということで考えております。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



売上高につきましては、712 億円で、前期比 6.1%の増。これは、手持ちが順調に推移をしていたということと、受注完工についても、そこそこしっかりと売上に計上することができました。

営業利益につきましては、売上高が順調に推移したことを含めて 45 億円と、これは採算性の改善も進んだ結果でございます。また、ブロック事業が増収に転じたことも大きく貢献をいたしました。営業利益率としては 6.3%、純利益として 27 億 8,000 万円ということで、経常利益については前期比 21.0%増、純利益につきましては、13.9%の増という結果となっております。

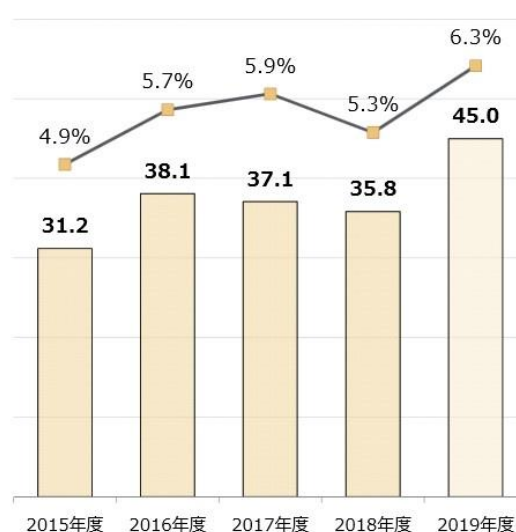
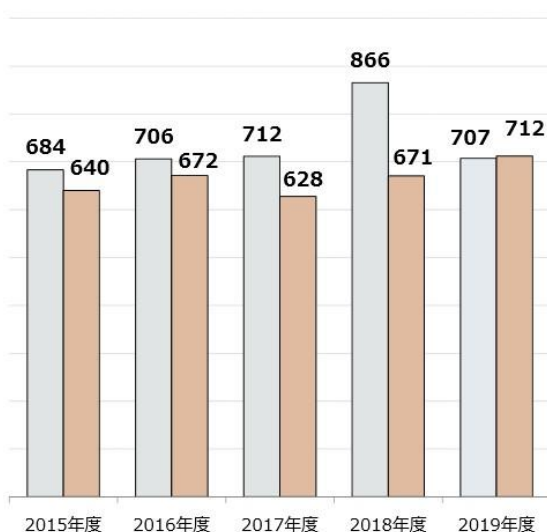
全社業績（連結）



株式会社 不動産テトラ

□ 受注高（億円） □ 売上高（億円）

■ 営業利益（億円） ■ 営業利益率（%）



4

これを、前中計3カ年と比較してグラフにしております。先ほど、受注についてはご説明しましたように、2018年が少し大型工事の受注で突出しておりますが、おおむね700億円を超えるところで堅調に受注ができてきております。

売上高につきましては、しっかりと手持ち工事をこなしながら、右肩上がりで見込みに増収をしてきているのが現状でございます。

営業利益につきましても、先ほどご説明しましたように、営業利益率で6.3%、45億円で、高い水準での結果を残すことができました。おおむね良好な状況が続いているのが現状でございます。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com

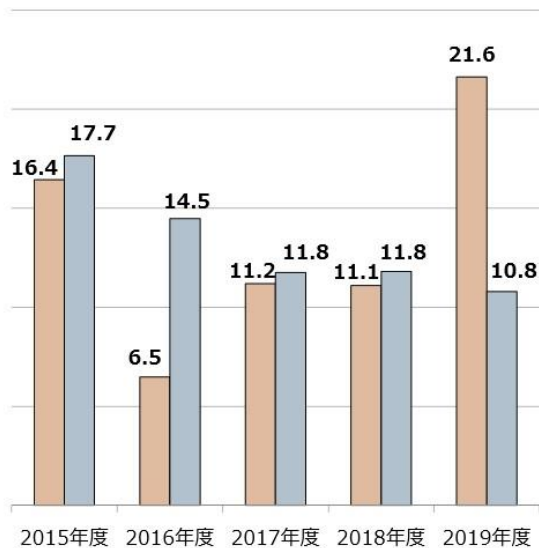


全社業績（連結）



株式会社 不動テトラ

■ 設備投資（億円） ■ 減価償却費（億円）



■ 研究開発（億円）



5

次に、中計の基本方針にもございます、積極的に戦略的な投資をして、将来へ事業領域の拡大等を目指すということでございます。その中で、2019年度の設備投資としましては、21億6,000万円と、かなり大きな投資をしてきております。これについては、この中計3カ年での投資目標に沿って、2020年度においても、このような傾向で続けていきたいと考えております。

大きな中身としましては、主力の事業であります地盤改良事業における戦力の増強、あるいは事業領域課題に対する新技術への投入ということで、8億円から9億円。それと、大型の地盤改良船を、2隻目のリニューアルを開始しております。それに6億円から7億円という形での大きな投資をしております。

また、3事業で今後の技術開発、あるいは基礎研究をしっかりやっていくということで、土浦の総合技術センターの再整備を続けております。そこへの投資も積極的に行っている結果でございます。

こういった形で設備投資を続けてきておりますので、減価償却については今後2020年、2021年と、少し大きな数字になってくるだろうと。ただ、減価償却費が増える中で、しっかりと答えを出していくのがわれわれの現中計と次期中計の課題となりますし、そういう方向でやっていくのが方針でございますので、しっかりと投資は続けていきたいと。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



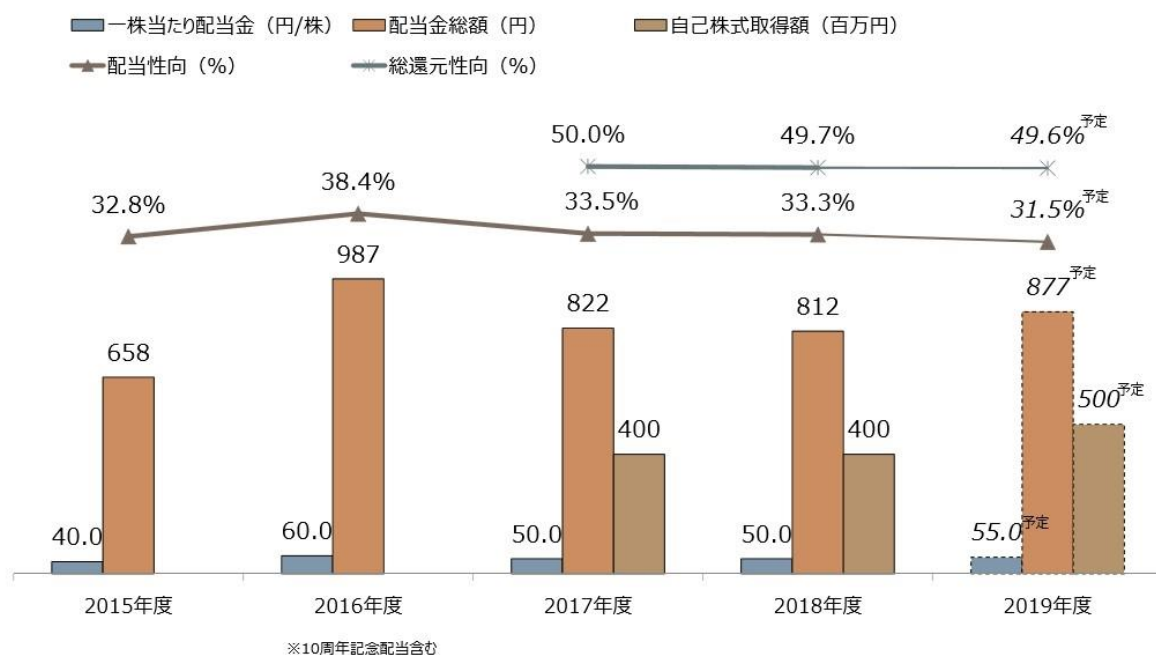
ただ、2021年3月期、今期の第1四半期、第2四半期には、こういった売掛金の残高の回収が進んでまいります。そういったことで2021年3月期中には、われわれとしては約2カ月の出来高相当である、120億円から130億円の預貯金体制には十分戻ってくると想定をしております。

全社業績（連結）



株式会社 不動産トラ

◆ 株主還元の状況



7

続きまして、株主様への還元の状況でございます。前中計と本中計に入りましての2018年度、2019年度でございます。2016年度には、合併10周年の記念配当を含めて60円という形での配当をさせていただきました。その後、50円というベースと、自己株式の取得と、これを合わせて50%ということで、中計の目標に沿って施策の実施をさせていただいております。

今期につきましては、決算発表でもお示しをしましたとおり、配当につきましては株主総会での決議事項でございますが、55円という形での5円増配での予定をさせていただいております。

そして、自己株取得につきましても、5億円ということで、既に自己株取得については実施を始めさせていただいております。結果的には約50%という形での株主様への還元方針を実施をしていく予定でございます。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com



セグメント別業績



株式会社 不動テトラ

(単位: 億円)

	2016年3月期 通期実績	2017年3月期 通期実績	2018年3月期 通期実績	2019年3月期 通期実績	2020年3月期 通期実績
期首手持ち受注高	416	459	494	578	772
土木事業	346	332	308	413	600
地盤改良事業	65	121	181	163	170
ブロック事業	6	7	6	2	5
受注高	684	706	712	866	707
土木事業	318	342	376	511	367
地盤改良事業	321	320	308	321	305
ブロック事業	48	44	28	35	36
売上高	640	672	628	671	712
土木事業	331	367	271	324	342
地盤改良事業	264	260	326	314	332
ブロック事業	47	45	31	32	37
売上総利益	98	117	111	108	120
(率)	(15.4%)	(17.4%)	(17.7%)	(16.1%)	(16.8%)
土木事業	33	49	35	32	34
(率)	(10.0%)	(13.3%)	(12.9%)	(9.9%)	(9.8%)
地盤改良事業	44	51	65	62	68
(率)	(16.6%)	(19.6%)	(19.9%)	(19.7%)	(20.4%)
ブロック事業	20	16	13	13	17
(率)	(42.5%)	(36.4%)	(41.3%)	(39.5%)	(45.0%)
販売費および一般管理費	67	79	74	72	75
営業利益	31	38	37	36	45
土木事業	17	30	15	11	13
地盤改良事業	16	19	32	27	32
ブロック事業	▲ 0.3	▲ 1.5	▲ 1.7	1.2	4.9

※全社計には3セグメント以外の数値及び連結調整額が含まれるため、3セグメントの合算値と全社計は一致していません。

(土木事業)

受注高は、前期にあった大型民間工事がなく368億円（前期比28.0%減）となりましたが、売上高は、豊富な期首手持ち受注高から342億円（前期比5.8%増）と増収となったことで、営業利益は、13億円（前期比13.6%増）と増益となりました。

(地盤改良事業)

受注高は、一部工事の時期ズレの影響により305億円（前期比5.0%減）となりましたが、売上高は、工事の進捗が順調で332億円（前期比5.8%増）と増収となったことで、営業利益は、32億円（前期比19.3%増）と増益となりました。

(ブロック事業)

受注高は、型枠賃貸・商品販売ともに災害復旧需要などがあり36億円（前期比4.9%増）となり、売上高は、37億円（前期比14.7%増）と増収となったことで、営業利益は、4億9千万円（前期比321.9%増）と増益となりました。

8

引き続きまして、セグメント別の情報について、少し詳しくご説明をさせていただきます。

土木事業、2018年度は500億円を超える受注。これは、先ほどご説明しました、大型の新幹線工事等の受注が重なった結果です。2019年度につきましては、ほぼ予定をしておりました受注ということで、368億円という形での受注で、前期に比べますと減であります。順調に受注をしたと感じております。

その中で、売上高が342億円、これは増収という形になっております。売上総利益としましては34億円で、これも売上高が伸びたこともあります。売上総利益が前期に比べて増益という結果で終わり、営業利益については13億円となりました。

潤沢な手持ちがずっと土木事業は続いております。施工要員が、なかなか余裕がないという現状も続いておりますので、受注については選別受注を続けながらということでの営業展開になろうかと思っております。次期への繰り越しが、まだまだたくさんございますので、それをしっかり消化をしていながらという展開になろうかと思っております。

続きまして、地盤改良事業です。受注につきましては305億円で、ほぼ前期並みなんです。若干時期ズレ等がありまして、2018年度に比べますと幾分減少したという結果になりました。ただ、

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com



売上高につきましては、大型工事、あるいは当期の受注完工工事等がしっかり進捗が予定よりも進んだことがあります。330 億円を超える売上高で、ここ 5 年では最高の売上高を示しております。

これに伴いまして、当然売上が増えた分で増益となり、そうすると、利益率についてもここ 5 年、高い利益率を維持をしている、なおかつ改善してきている傾向が続いておりますので、68 億円という大きな売上総利益を出しております。営業利益的にも 32 億円で、しっかり結果を出してきています。

ただ、受注が若干結果的にショートしましたので、2021 年 3 月期、2020 年度については、少し繰越工事、期首の手持ち工事が少ないということで、しっかり受注完工が必要になってくることが課題と考えております。ただ、利益面については、しっかり改善、あるいは維持ができてきていますので、戦力を維持しながら、あるいは次のステップへという展開になろうかと思っています。

ブロック事業でございますが、少し前は、赤字ということでかなり施策を実施しながら体制の見直し、あるいは営業展開の見直し等を実施してきました。その結果、先々期、2018 年度は黒字に転換することができました。また、2019 年度につきましては、災害復旧、あるいは維持、補修につながり、さらに老朽化したブロックへの重点事業等がうまく営業展開できたということで、売上面でも 37 億円と、結果的に営業利益で 4 億 9,000 万円、約 5 億円ということで増益の結果を得ることができました。

今後、こういった災害復旧、あるいは減災、防災事業でのブロックの積み増し等の事業が、まだまだ続くということと、海外展開も含めて積極的な営業展開をやっていくのがブロック事業の今後の課題と考えております。

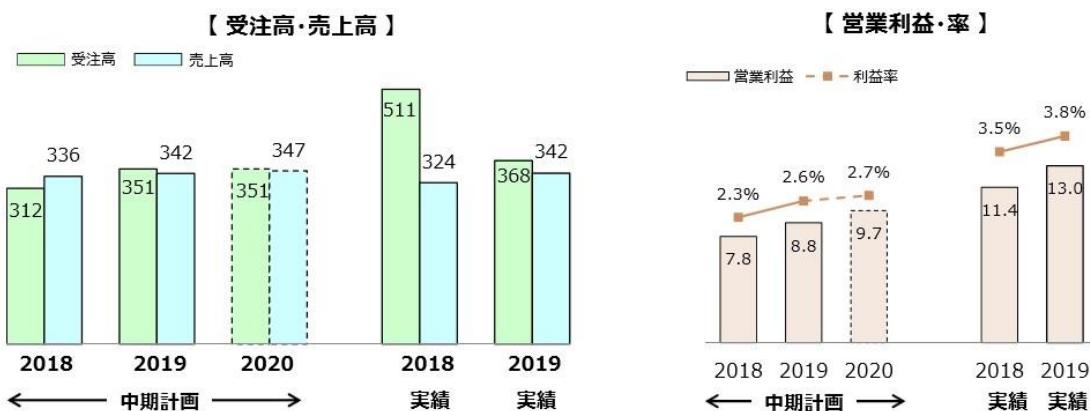
サポート

日本	03-4405-3160	米国	1-800-674-8375
フリーダイヤル	0120-966-744	メールアドレス	support@scriptsasias.com



事業方針	長期安定性の確保（受注、利益、人員）～「守り」から「攻め」へ～
基本戦略	▶ 事業規模の拡大 ▶ 発注者ニーズに対応した関連技術の積極導入 ▶ 人的資本の充実（採用・育成） ▶ 生産性向上への取り組み

◆ 年度別数値目標（単位：億円）



9

今、ご説明しました、それを各事業ごとに少しグラフにして、分かりやすくしております。

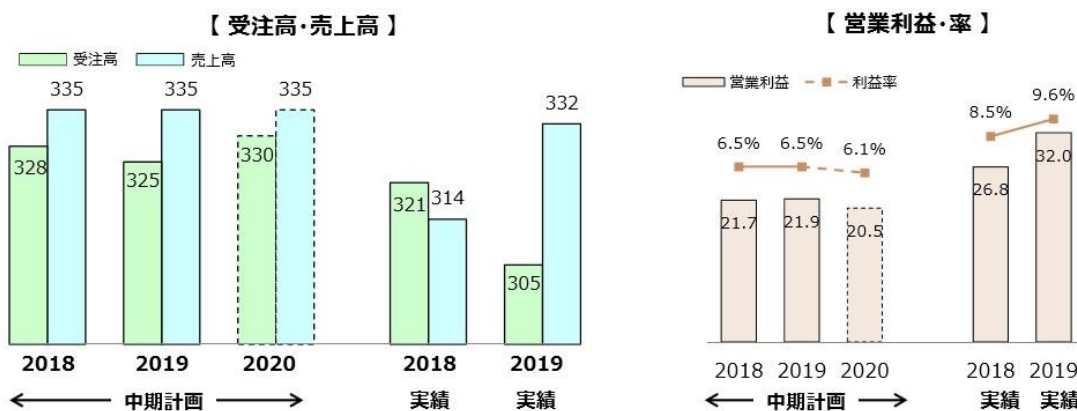
まず、土木事業です。受注がこういう形で、先ほどからご説明していますように少なくなりましたが、売上高については、しっかりと計上していったと。利益面についても、計画に比べまして、改善をしてくれています。ただ、改善はしたということですが、営業利益率が3.8%ですので、もう少しさらなる改善と努力が必要だろうと考えております。そのためにも、中計の基本戦略として考えております、発注者のニーズに対応した関連技術の導入、あるいは生産性向上への取り組みが2020年度にも必要だろうと思っています。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

事業方針	持続的事業展開を可能とする体制強化と事業領域の拡大	
基本戦略	▶ 体制強化	・施工体制、設備及び研究開発の強化
	▶ 事業領域の拡大	・競争優位性の維持 ・周辺領域への展開 ・海外事業の強化（東南アジア・米国）

◆ 年度別数値目標 （単位：億円）



10

地盤改良事業でございます。受注が若干前期に比べて減りました。中計の計画においても少しショート気味、というお話を先ほどもさせていただきました。2020年度においては、この受注をいかに確保して、売上を、受注完工を増やして確保していくかが課題だろうと考えております。

利益面につきましては、中計の基本戦略の一つでもあります競争優位性の維持、それと海外事業の強化、こういったところが順調に成果を上げてきております。得意な分野での利益率の改善、あるいは海外事業の積み増し等も積極的にできておりまして、中計の目標としておりました6%強の営業利益に対して、2018年、2019年と、8%、9%を超える結果が出せてきております。こういう成果を2020年度、そして次期中計へとつなげていければと考えております。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

事業方針	技術に裏付けされた製品により安定した収益基盤の構築
基本戦略	▶ ICTを活用した営業強化 ▶ 二次製品需要への対応 ▶ 砂防市場への注力 ▶ 海外市場におけるロイヤリティ収入・ODA案件の強化

◆ 年度別数値目標 (単位：億円)



11

続きまして、ブロック事業でございます。ブロック事業は、現中計、何とか黒字体制の確保と、少しずつでも増収増益になるようにという形での施策と計画をしてまいりました。災害復旧絡みのお仕事、あるいは減災、防災に絡むお仕事等の増加もありまして、想定していたよりも早く増収増益が顕著に表れだしてきております。この中にはICTを活用した営業の強化、あるいは砂防市場への注力といった新しい試みも施策として実施をしてきております。

結果的に2019年、5億円近い営業利益と13%を超える営業利益率に回復をしてきています。2020年、そして次期中計へ、これを維持というよりも、若干増やしながらか拡大がしていける施策を実施していくことが課題だろうと捉えております。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

台風等による洪水対策事業 八千代1号幹線浸水対策調整池築造工事

千葉県八千代市において八千代市発注の「八千代1号幹線浸水対策調整池築造工事」が完成しました。本工事は2013年10月の台風26号による高津川の洪水で、甚大な被害となったことから、高津川(八千代1号幹線)沿線の洪水被害軽減対策を目的に、大雨時に一時的に雨水を溜める貯留施設として、下水道浸水被害軽減総合計画に基づき、大和田南小学校の校庭下に調整池(15,500㎡)を築造した工事です。小学校での工事で、資機材の搬出入時は通学する児童の交通事故防止に配慮するとともに、狭いヤードでの施工でしたが、クレーン仕様、機械配置の工夫により、無事故・無災害を達成。全校児童を対象に現場見学会を開催し、各方面から高評価をいただきました。完成後は周辺地域の床上洪水被害が予防され地域住民の安心・安全が図られることが期待されています。



施工状況空撮

事業主体／千葉県八千代市上下水道局
施工場所／千葉県八千代市立大和田南小学校他

12

トピックスとしまして、いくつか挙げさせていただきました。減災、防災を、今回は各事業でどう取り組んでいるかということで挙げさせていただいています。

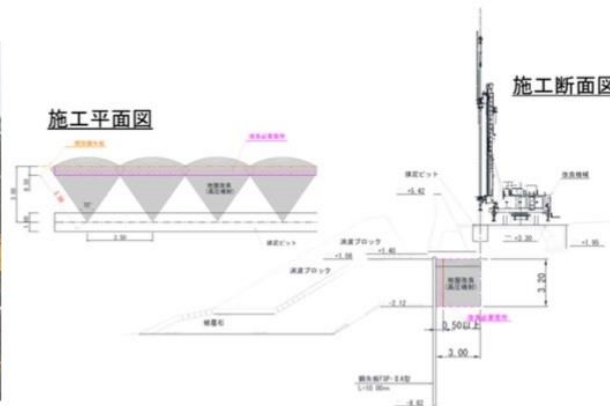
これは、千葉県の八千代市の大和田に近いところの小学校のグラウンドに、地下の調整池を、大雨や台風時の洪水のときの洪水対策として築造する工事でございます。校庭の半分ぐらいを掘削して、掘った中にコンクリート構造物の調整池を築く。周りが本当に住宅地で、小学校の授業をしながらということで、難工事ではありましたが、しっかりと無事故・無災害で完成して納品をさせていただくことができました。地域の安全と安心を高める意味で重要な工事ではございました。本当にしっかりとやれた工事だろうと思っています。

サポート

日本	03-4405-3160	米国	1-800-674-8375
フリーダイヤル	0120-966-744	メールアドレス	support@scriptsasias.com

南海トラフ地震に備える護岸補強工事 (平成30年度大分港海岸(津留地区)護岸(改良)地盤改良工事(第2次))

南海トラフ地震・津波や台風による高潮に備えるため、大分港海岸では地域の安全・安心を守るため、海岸保全施設の整備が実施されています。津留地区では老朽化した既設鋼矢板からの吸出しによって、水叩きの空洞化や陥没が発生しており、護岸の倒壊に繋がる恐れがあるため、吸出し防止対策としてFTJ-FAN工法が採用されました。工法の特徴を生かし、狭い施工現場において既設護岸直下を扇形に地盤改良することにより、従来工法よりも経済的かつ工期の短縮を実現しました。



事業主体：国土交通省九州地方整備局
施工場所：大分県別府市

13

地盤事業で一つ挙げさせていただいているのが、九州の大分県の大分港海岸の護岸の背面からの吸出し防止と安定、そして地震時の護岸全体の安定対策ということで、国土交通省から発注になった工事で。当社の開発をしました FTJ-FAN 工法が採用されて、施工をさせていただきました。

これは、試験工事から取り組みをさせていただきまして、護岸延長で、本当に 5 キロから 10 キロ近い、かなりの延長になります。その初段工事という形での施工が始まってきております。

こういった、本当に狭い護岸上で補強をしていくということで、小型の施工機で特殊な Jet 工法を施工する形になっております。これも独自開発した工法を採用いただいて、受注につなげている成果でございます。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

「防災・減災、国土強靱化のための3か年緊急対策」に基づく波浪対策事業 酒田港・秋田港でのテトラポッドの採用

近年激甚化している災害により全国で大きな被害が頻発している状況から、2018年12月に閣議決定された「防災・減災、国土強靱化のための3か年緊急対策」は、(1)防災のための重要インフラ等の機能維持及び(2)国民経済・生活を支える重要インフラ等の機能維持の観点から、特に緊急に実施すべきハード・ソフト対策について、2018年度から2020年度までの3年間で集中的に実施するものです。

本対策に基づき、酒田港(山形県)、秋田港(秋田県)では、波浪に対する防波堤の安定性および港内静穏度の向上による、自然災害リスクに対する防災・減災並びに荷役作業の効率化を図る目的で、50t型テトラポッドが採用され、防波堤の整備工事が進められています。



事業主体：国土交通省東北地方整備局
施工場所：山形県酒田市

14

ブロックでございます。これも減災、防災に国土強靱化ということで、秋田港、あるいは山形の酒田港で、防波堤の安定のためのテトラポッドが大量に発注をされて、受注をさせていただいております。50 トンのテトラポッドでございます。今後もこういった減災、防災対策とともに、50 年前、40 年前に入れたブロックの、やはり少し補填の工事がかなり出てまいりますので、そういったところへの展開も積極的に行っていきたいと思っております。

サポート

日本	03-4405-3160	米国	1-800-674-8375
フリーダイヤル	0120-966-744	メールアドレス	support@scriptsasias.com

◆常磐自動車道 平窪工事



工事名称：常磐自動車道 平窪工事

事業主体：東日本高速道路株式会社東北支社

施工場所：福島県いわき市

◆平成30年度名瀬港(本港地区)岸壁(-7.5m) (改良)工事(第3次)



工事名称：平成30年度名瀬港(本港地区)岸壁(-7.5m)
(改良)工事(第3次)

事業主体：国土交通省九州地方整備局

施工場所：鹿児島県奄美市

15

続きまして、代表的な完成工事を少しご紹介をさせていただきます。

土木事業で、常磐自動車道のいわきから仙台に向かったの4車線化工事、これの工事の平窪工事が完成をいたしました。これがもともとの2車線で運用されていた工事に対して、2車線を共用しながら、2車線拡幅工事をしていくということで、かなりの難工事でございますが、常磐自動車道においては、平窪工事を含む二つの工区で単独受注。

そして、もう一つ、鳥の海というところで3社JVの代表企業、スポンサーということで現在も施工を続けております。インフラの再整備ということでの完成工事でございます。

それと、ここにお示ししています、鹿児島県の名瀬港、もともとの旧の岸壁に対して、大断面、大規模な、岸壁を前に増進、深掘りをするための新しい岸壁を築造する工事です。これは、背面を有効に利用するためにも岸壁を前出しにすると。鋼管と床板で岸壁を造る工事が完成をしております。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

◆旭市新庁舎建設建築工事



工事名称：旭市新庁舎建設建築工事
事業主体：旭市
（元請会社：奥村・阿部特定工事共同企業体）
施工場所：千葉県旭市

◆弥富ふ頭第1貯木場北側地盤改良工事（その2）



工事名称：弥富ふ頭第1貯木場北側地盤改良工事（その2）
事業主体：名古屋港管理組合
（元請会社：みらい建設工業株式会社）
施工場所：愛知県名古屋市

16

次に、地盤改良の代表的な工事としまして、これは千葉県の旭市の市庁舎の新築に伴います地震時の液状化対策、耐震対策として、当社の得意としております砂杭を施工しているところでございます。代表的な工法でございます、静的締固め工法で、SAVE コンポーザーでの施工状況。これも完成をしております。こういった地震時の耐震化、液状化対策の工事は主力の市場でございます。

そして、主力の海上のサンドコンパクション船での地盤改良工事、弥富ふ頭、名古屋港の管理組合の仕事をしていただいたものです。この船はサンドコンパクションの3連装。実は現在、この船ではございませんが、第31不動号というサンドコンパクション船を、現在リニューアルで新しく艀装を行っております。増強という形での展開もしていきたいと思っております。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

◆焼津漁港水産流通基盤整備(特3種外郭)
焼津南防波堤(改良)工事(粘り強い対策工)



工事名称：焼津漁港水産流通基盤整備(特3種外郭)
焼津南防波堤(改良)工事(粘り強い対策工)
事業主体：静岡県
施工場所：静岡県焼津市

◆和歌山下津港 港湾施設整備(推進費)工事



工事名称：和歌山下津港 港湾施設整備(推進費)工事
事業主体：和歌山県
施工場所：和歌山県和歌山市

17

ブロックの代表例でございます。これは、漁港の粘り強い対策ということで、ペルメックスが採用された焼津市の例でございます。

そして、たくさんございます、和歌山の下津港で、港湾整備事業でお使いをいただいておりますテトラポッド、大量に発注をいただいて、製作をしている状況の写真でございます。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

主な受注工事



株式会社 不動テトラ

工事名称	事業主体	施工場所
北海道新幹線 国縫トンネル	鉄道建設・運輸施設整備支援機構 北海道新幹線建設局	北海道山越郡 長万部町
呑川増強幹線工事	東京都下水道局	東京都目黒区～ 東京都世田谷区
隈上川長野伏せ越し改築工事	国土交通省九州地方整備局	福岡県うきは市
姉崎火力発電所発電設備建設土建工事	株式会社JERA (元請会社：鹿島建設株式会社)	千葉県市原市
淀川左岸線(2期)1工区堤防整備他工事	国土交通省近畿地方整備局 (元請会社：東亜建設工業株式会社)	大阪府大阪市
医療法人徳洲会鹿児島徳洲会病院移転新築工事	医療法人徳洲会 (元請会社：株式会社桜木組)	鹿児島県鹿児島市

18

続きまして、受注としての代表的な例でございます。主だったところ、それぞれ特徴のある受注工事を挙げさせていただいております。

一番上はトンネル工事。長大といいますか、延長の長いトンネル工事のスポンサーとして受注した工事でございます。北海道新幹線のものであります。

次は、東京都の下水道の大断面のシールドの大型工事、単独で受注をした例でございます。

三つ目は、国土交通省九州地方整備局で初めてとなりました、設計を受けて確認しながら、施工を受けていく、設計監修施工タイプの工事を WTO で、九州地方整備局初めてのものを受注に至ったというものでございます。

四つ目から六つ目までは、地盤改良の例としまして。一つ目は、エネルギーの再生事業として、JERA からのご発注の姉崎の発電所。二つ目は、インフラの再整備と護岸の整備を兼ねて、近畿地方整備局から発注になりました、淀川左岸線の地盤改良。最後でございますが、これは先ほど旭市の市庁舎でもお話をしましたが、建築、建物、これは病院でございます。鹿児島の病院の建築の基礎としての地盤改良。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



こういったものを代表例として挙げさせていただいております。

トピックス（社会貢献-1）



株式会社 不動テトラ

現場見学会 八千代1号幹線浸水対策調整池築造工事



調整池の壁に名前を書き込む児童たち

八千代市発注の「八千代1号幹線浸水対策調整池築造工事」は、大和田南小学校の校庭下に調整池(15,500㎡)を築造した工事です。全校児童を対象に現場見学会を開催し、大和田南小学校の校長先生をはじめ先生方と1年生～6年生の全児童約800名の皆さんに見学していただきました。児童は、本工事の調整池の役割を学び、調整池の壁に自分の名前を書き込みました。貴重な体験ができて楽しかったと喜びの言葉と、感謝のお手紙もいただきました。



施工状況空撮

19

トピックスとしまして、いくつかまたご紹介をさせていただきます。

先ほど、八千代市でのご発注の千葉の小学校での調整池の工事のお話をさせていただきました。この工事は、小学校のグラウンドを半分閉鎖しながらというお話をしました。その中で、小学校の子どもさんたちに、こういったものがどういう意味での工事であって、どういうことに役立つのかを知っていただくことも含めて、800名の皆さんに、全て見学を実施をしていただいております。

最終的に土でかぶせるんですが、柱のところに、みんなに好きな形での名前の書き込み等をしていただいております。こういったことは、毎年いろいろな工事で、各地で実施をさせていただいております。代表例として、千葉の調整池を挙げさせていただきました。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



鹿児島大学教育学部附属特別支援学校への目杭の発注(ソイルテクニカ)

ソイルテクニカでは社会貢献活動の一環として、1995年5月から鹿児島大学教育学部附属特別支援学校に地盤改良の杭の打設目印となる目杭を発注しており、今年で26年が経過しました。

今年も東京および大阪機械センター宛に、同校からお礼状と生徒の皆さんが作業学習の一環として制作された干支の置物をお送りいただきましたのでご紹介します。めぐい作業は生徒の皆さんの育成の機会として活かされ、目杭の購入費は校外での買い物学習や公共施設の利用学習に活用されています。



生徒さんが制作した干支の置物

校長先生からのお礼状



20

二つ目としまして、これも実は26年間続けてきております。鹿児島大学の教育学部附属の特別支援学校さんに、私どもの地盤改良で、測量に使う目杭という、測量に使う杭なんですけども。これを毎年皆さんに作っていただいております。正式に発注するという形でお作りいただいております。

そういったものを作っていただいたものの購入でお支払いした費用、これを皆さんは校外での買い物学習や、公共施設の利用学習に活用をしていただいております。毎年、こういった形での感謝状とお礼をいただいております。こういったことも引き続き続けていければと思っています。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

鹿児島港湾・空港整備事務所開催の出前講座への協力

2019年10月11日、国土交通省九州地方整備局鹿児島港湾・空港整備事務所が奄美市名瀬の伊津部小学校で6年生41名を対象に、出前講座「港の役割を学び、消波ブロックを作ってみよう！」を開催し、当社も取り組みに協力したのでご紹介いたします。

講座では、同事務所職員による港の役割や重要性に関する講話が行われ、当社は水槽を使って、波を打ち消すブロックの効果の説明、テトラポッドの模型製作体験の講師を務めました。

当社職員指導の下、児童たちは各自好きな色のテトラポッドの模型を懸命に製作。水槽実験で一人ずつ波を起こすと、消波ブロックが発揮する効果に驚いていました。講座の最後には記念として、テトラポッドの消しゴムとストラップを配布しました。校長先生をはじめ他の先生方にもご参加いただき、児童からも感謝の言葉をいただきました。



21

そしてもう一つ、最後になりますが、これは鹿児島の奄美市で、実際に消波ブロックがどういう形で役に立つのかという実験を、子どもたちと一緒に、出前出張という形でやらせていただいている状況です。そして、模型の制作も皆さんに手伝っていただいています。こういったことも、実は毎年いろいろな地域でさせていただいて、いかに減災、防災事業がみんなの生活を守りながら、安心、安全を提供しているかも含めて校外学習という形での実施をさせていただいております。

以上、2020年3月期の決算に関わるご説明をさせていただきました。

2020年度の計画につきましては、決算の開示のときにも提示をさせていただきましたが、私どもの事業、土木事業につきましては、しっかりと手持ち工事を請けながら、受注完工、そう影響なく売上を上げていきますので、コロナ感染の影響は少ないかなという気はしております。

ただ、主力であります地盤改良事業、あるいはブロック環境事業は、期内受注完工、それと工期の短い工事が多うございますので、今後の動向を見ながら、こういった形での発注時期のズレとか、施工時期のズレが影響するかを少し加味させていただいて、合理的に計画がお示しできるようになった時点で開示をさせていただければということで、決算発表時点では、2020年度の計画につい

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

ては開示を控えさせていただきました。その辺については、ご理解をいただければと思っております。

以上でございます。ありがとうございました。

司会：奥田様、ご説明ありがとうございました。

サポート

日本	03-4405-3160	米国	1-800-674-8375
フリーダイヤル	0120-966-744	メールアドレス	support@scriptsasias.com



質疑応答

司会： それでは、これから質疑応答に入ります。

なお、この IR ミーティングは、質疑応答部分も含め、全文を書き起こして公開する予定でございます。従って、質問の際、会社名、氏名を名乗られますと、そのまま公開されますので、匿名を希望される場合は名乗らないように、お願いいたします。

それでは、ご質問のある方、挙手を願います。マイクをお持ちいたします。

質問者： この 3 月末の事業別の受注残高を教えてくださいませんか。

サポート

日本	03-4405-3160	米国	1-800-674-8375
フリーダイヤル	0120-966-744	メールアドレス	support@scriptsasia.com

1. 経営成績等の概況

(1) 当期の経営成績の概況

当連結会計年度におけるわが国経済は、設備投資や雇用・所得環境が良好な状態が続き緩やかな回復基調で推移していましたが、米中の経済摩擦や消費税増の影響が徐々に顕れ、また新型コロナウイルス感染症の拡大により消費や生産の停滞が顕在化するなど、年度末にかけては景気の減速が懸念される状況となりました。

建設業界におきましては、民間建設投資は減少に転じたものの、公共建設投資は公共事業関係費が補正予算を含め引き続き高水準となったことから、全体としては堅調に推移いたしました。

当社グループの業績につきましては、受注高は70,739百万円（前期比18.3%減）となりましたが、期首の手持ち受注高が77,245百万円と高水準な状況であったことから、売上高は71,200百万円（前期比6.1%増）と増収となりました。

また、利益面では工事採算性を良好な状態で維持できたことや、ブロック事業が増収に転じたことにより営業利益は4,497百万円（前期比25.5%増）、経常利益は4,409百万円（前期比21.0%増）、親会社株主に帰属する当期純利益は2,777百万円（前期比13.9%増）とそれぞれ増益となりました。

報告セグメントの業績は次の通りです。（セグメント情報の詳細については、15ページをご覧ください。）

(単位：百万円)				
		前期	当期	増減
期首手持ち受注高	土木事業	41,272	59,961	18,689
	地盤改良事業	16,305	17,012	706
	ブロック事業	223	464	241
	その他	59	44	△15
	調整額	△89	△235	△146
	全社計	57,770	77,245	19,475
受注高	土木事業	51,051	36,750	△14,301
	地盤改良事業	32,113	30,522	△1,590
	ブロック事業	3,456	3,625	169
	その他	576	589	13
	調整額	△640	△747	△107
	全社計	86,556	70,739	△15,817
売上高	土木事業	32,362	34,244	1,881
	地盤改良事業	31,406	33,229	1,823
	ブロック事業	3,215	3,688	473
	その他	591	593	2
	調整額	△494	△554	△60
	全社計	67,081	71,200	4,119
営業利益	土木事業	1,143	1,298	155
	地盤改良事業	2,684	3,203	519
	ブロック事業	117	493	376
	その他	6	20	15
	調整額	△367	△518	△150
	全社計	3,582	4,497	915
次期繰越受注高	土木事業	59,961	62,467	2,506
	地盤改良事業	17,012	14,305	△2,707
	ブロック事業	464	401	△63
	その他	44	40	△4
	調整額	△235	△429	△193
	全社計	77,245	76,784	△461

※当該連結累計期間前に外貨建てで受注した海外工事で、当該連結累計期間中の為替変動により、請負金額に増減があるものについては、期首手持ち受注高に反映しております。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com

山下：私からご説明します。

決算短信がお手元にあるかと思いますが、決算短信の 2 ページのところに各事業の、今、お問合せがありました次期繰越受注高が、2 ページの表の一番下に出ているかと思いますが。

土木事業につきましては、当期での受注残が 624 億 6,700 万円、それから、地盤改良事業では 143 億 500 万円、ブロック事業で 4 億 100 万円、その他等を含めまして、トータルで 767 億 8,400 万円というような水準でございます。以上でございます。

質問者：このコロナの影響もあり得るということなんですけど、4～5 月で具体的にその辺の影響が出て、地盤改良の受注が少ないとか、そういう影響は出ているんですか。

奥田：それでは、私からお答えいたします。

まだ、現状ではコロナの影響で仕事がなくなったとか、工事が延びるというのは、明確になったのは少ないと考えています。大手の建設会社さんを含めて、施工をしばらく中断するということで 4 月の終わりぐらいから発表が相次いだときには、もう少し工事が、かなり止まるかなという心配もしていたんですけども、ほぼ現状は、受注している工事についてはしっかり施工をしてきております。

ただ、地盤改良の事業といいますのは、官庁工事だけではなく、民間の事業がかなりのウエートを占めてまいります。ですので、こういった民間の事業、設備投資、あるいは建築市場等が今後どういうふうに事業を着手されていかれるかは、もう少し様子を見ないと、なかなか読み切れないのが 1 点。

それともう 1 点は、地盤改良事業は海外も展開をしております。海外につきましては、現状なかなか先が明確に読めない状況でございます。いずれ始まるという連絡は来ておりますが、明確にということが、なかなか難しいので、少し懸念があると考えております。以上でございます。

質問者：この民間の事業ウエートは何割ぐらいなんですか。

奥田：年によって若干違うと思うんですけども、場合によっては 40%とか、多いときには民間の事業があると考えています。

質問者：海外展開といっても、大体 ODA ですよ。

奥田：そうです。ODA と、あとアメリカ、北米は ODA ではなく民間の事業もありますので、北米に関しましては ODA は全く関係ないのが現状です。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



質問者：では、ウエートは小さいのであれば、あまり海外展開で影響を受けるとは考えにくいと思うんですけど。

奥田：先ほどご説明をしましたが、地盤改良事業とブロック事業が海外に、今、注力して事業展開をしておるんですけれども。売上の比率という意味では、確かに全社で考えると、そう大きな比重ではございません。

ただ、地盤改良の事業で考えますと、300億円の売上に対して、多い年ですと30億円、少なくとも20億円という売上がございますので、利益率を見ていただきますと、20億円ですと、例えば20%ですと4億円というような形になってきますので、その辺については売上比率が少ないということで影響が少ないというわけではなく、やはり積極的に海外に注力して事業を展開していくことを重要視しているという意味で、海外は懸念材料になってくるのではないかと考えています。

質問者：最後に、このブロック事業は、前の赤字の時代に比べて、かなり環境が良くなったということですか。競合とか、そういう面を含めて、事業環境の変化について教えていただきたい。

奥田：ご指摘をいただきましたように、地球温暖化の影響で、実はその影響はこれから仕事に影響が出てくるだろうと見ています。今、市場環境が、われわれの発言としては、底を突いた時代からよくなってきていますのは、本当に大型の台風とか、いろいろな意味での災害復旧と老朽化したブロックのところの補填といいますか、維持、補修は現状、市場として大きくなってきています。

もう一つは、今、国交省を中心に、ご指摘のありました温暖化に伴う、あるいは災害が大きくなっていくことによる波の力、波力とか、波高の見直しが行われてきています。これが、実際にしっかり基準が変わりますと、今の状況では被災するところはかなり出てくると思います。実際に起こらないと被災はしないんですけども。ですので、対策として、今のままでは不十分ということで、そういった意味での新しい事業といいますか、強靱化の事業の一面として、少しお仕事が増えてくるだろうなとは考えています。

質問者：競争状況はどうなんですか。

奥田：競争は、シェアとしては、あまり変わらない状況だろうと考えています。大きい意味では、上場会社さんでは3社さん。その中での受注といいますか、シェアという意味では、出っこみ引っ込みは出てきますけど、善戦はしていると思いますけど、そう大きく伸びたということはないと思っています。

質問者：ありがとうございました。

司会：それでは、他にご質問がある方、挙手をお願いいたします。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



質問者：よろしくお願いします。

中計に対して、2年目は非常に順調な進捗になったということだと思うんですけど。前期、もともとの期初計画だと、若干営業減益でご計画されていて、上方修正のところでも、そんなに大きく利益率が改善するというイメージでの上方修正ではなかったと思うんですけど。最終的に結構大きく利益が上振れしたような形になって、かなり高いレベルの営業利益率に前期実績はなっているんですけれども。これについて、どういう評価をしたらいいでしょうか。

この水準というのは、ちょっと出来過ぎで、今期に関して言うと、場合によっては下がる方向で、前期の期初計画みたいに見てらっしゃるのか。あるいは ICT 施工とか、いろいろなことを取り組まれていらっしゃるの、このぐらいの利益率水準は十分維持していけると考えているかという、利益率の考え方を教えていただけないでしょうか。

奥田：それでは、私からお答えをさせていただきます。

確かに、中計の計画をしたときに比べまして、かなり結果的に 2018 年度も、2019 年度も目標を達成というよりも、かなり改善された結果が出ております。計画をさせていただいた時点では、10 年を見たときの最初の 3 カ年で、積極的に今までにない投資をしていこうと、基盤整備という意味で、しっかり基盤をつくろうということで 3 カ年の計画をして発表させていただきました。

その中で、投資、しっかりやってきています。ただ、その投資に関わる費用を見ても、現状、この 2018 年度、2019 年度については、それまでの施策の効果もあるんですけども、地盤改良事業において、かなり優位な営業展開ができたのが大きいと思います。

売上の的には、決して目標をクリアしたわけでは、地盤改良事業については、少し少なかったときもあります。ただ、利益率が想定したよりも大きくなったと。

これは、1 点にはそういった施策効果なんですけど。もう 1 点は、働き方改革で、実は人件費とか、いろんな発注資材、いろいろな面において費用がもう少しかさむだろうという想定もしておりました。これも、実はいろいろな生産性向上の改善の努力もしてきています。そういったものが 100% ではないんですけども、少しずつカバーすることによって、想定していたよりも落ち込みがなかったかなというのは率直な感想です。

ただ、今後、まだこれは働き方改革、実は途中でして、最終的には地盤改良の事業においても、土木と同じように完全に週休 2 日で、本当に 4 週 8 閉所という時代も来ますし。それは当然われわれの目標ですので、実施をしていきます。そうなったときに、協力会社さんを含めて、今までと同

サポート

日本	03-4405-3160	米国	1-800-674-8375
フリーダイヤル	0120-966-744	メールアドレス	support@scriptsasias.com



じように事業をやっていくことになると、やはりそういった意味での原価構成上は少し高くなってくるのかなという心配といいますか、懸念はしております。

ですので、今後の利益がどうかというお話ですけども、なかなか 2020 年度、開示をさせていただいていませんので、詳細にはお話はなかなか難しいんですけども、若干厳しいだろうなと予想はしています。

当然、投資を積極的に、本当にこれは将来のためには必ずプラスになるということで続けてきていますので、その償却が少しずつ増えてまいりますので、それを負担しながら利益を出していくことになりますので。この 2 年ほど、皆さんが想定されるほど大きな利益となるかどうかについては、少しは止まってくるのかなというのが正直なところです。

ただ、そうは言いましても、しっかり施策はやっていますので、どこまでその効果が出てくるかは、開示させていただくときに、それなりにお出しできるかなという気はしています。

質問者：3 カ年で、広い範囲で 100 億円以上の投資をやっていきますよというのがあったかと思うんですけども。初年度、2 年目も投資はやっていきましたよということなんですが、3 年目は、そこと比べてもかなり大きめの投資をご予定されている、というようなイメージで捉えたほうがいいのでしょうか。

奥田：設備投資に関しましては、また 3 年目も同じように、20 億円を超える設備投資を計画はしています。研究開発につきましても、右肩上がりで昨年度よりも多い研究開発の費用を計画しております。

その他に、全社の基幹システムの更新も既に始めておりますので、これにもしっかり投資をします。そういったことで、3 年目も 2019 年度よりも大きな投資になる計画で考えております。

質問者：分かりました。

最後なんですけど、民間のところがちょっと不透明ということもあったんですけど。他の、業界によっては急速に今、足元の状況が厳しい、鉄道とか、かなりキャッシュ・フローが厳しくなっている業界もあると思うんですけど。そういった業界が、土木の案件は急に止められるものでもないと思いますけれども、投資が急に絞られるとか、先の案件が後ろ倒しになるとか、キャッシュ・フローマネジメントの中で、いろいろな話が出てくる可能性とか、価格を下げてくれというような話が出てくるとか、いろいろな協力要請が出てくる可能性は、リスクとして考えたほうがよさそうでしょうか。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



奥田：官庁工事といいますか、公共工事は、ご指摘のとおり、私は変わらずに事業は進むと考えています。当然、新型コロナに対する経済の面での、支えるという意味での、ひょっとすると補正予算等で増える可能性もあると思いますし。減災、防災については止めるわけにいきません。

今年も多分、また大型の台風とか、いろいろな形で想定されますし。最近、関東でも地震がぼつぼつ起こっていますが、こういった南海トラフの動き等も考えると、減災、防災、国土強靱化の事業が止まるとは全く考えておりませんので。そういった意味で、不安要素は持っておりません。多分建設業界はみんなそうだろうと思います。

それと、インフラの再整備に関しても、高速道路の4車線化、あるいは古くなりました下水や水道の再構築とか、待ったなしの工事がたくさんありますので、公共事業については、特に国については全く遅れることなく進むと思います。

ただ、一部、公共工事で少し遅れるかなと思いますのは、地方自治体。これにつきましては、やはりいろいろな意味での予算という意味で、前倒しでいろいろなことに使われておりますので、公共事業については、少し後ろへ発注時期を遅らされるかなと。職員の方のコロナに注力されている状況を見ますと、なかなか新規の発注事業は少し難しいので、遅れてくるだろうと。

ただ、私どもは、そういった地方公共事業は、そんなに大きな影響はないだろうと。地盤改良とブロックに若干遅れがあるかなという心配をしているだけです。

あと、民間です。民間につきましては、実は米中の貿易摩擦、あるいは消費税が上がった頃から、若干ですけども、皆さんもお感じになられていると思いますけども、設備投資とか、新規の事業展開という意味では、各業種、少し抑え気味になられるかなという予測は、われわれ建設業界はしております。その中で、今回の新型コロナで、どういうふうに関係を再度興されるかなというときに、多分やるものはやる、少し遅らせるものと、すぐくめりはりをつけてこられるのかなという気がしております。

私どもの事業展開上は、土木はほぼ影響はないと思っております。ほとんどが官公庁工事ですので。地盤改良につきましては、民間の事業で、今後予定している大きな工事が少し時期ズレしてくる可能性はあるとは思っておりますが、地盤改良を採用される案件は、ほとんど必要な事業にそうやってお金をかけて計画をされておられますので、大きく影響するかどうかは、もう少し様子を見ないと分からないと思っております。

ただ、自動車業界を含めて、少し動きが気になる場所もありますので、もう少し様子を見ながらということになろうかと思えます。

サポート

日本	03-4405-3160	米国	1-800-674-8375
フリーダイヤル	0120-966-744	メールアドレス	support@scriptsasias.com



質問者：ありがとうございます。

司会：それでは、どうぞ。

質問者：景気対策というと、どうしても土木関連は出てくるイメージはあるんですけども。昨今のコロナの影響で、巨額だったこともあって、あまり土木とか、そこら辺が目立っていないというのも印象として持つのですが。

御社直接というよりも、全体としての変化に関して伺いたいんですけども。コロナの影響もあって、今後の景気対策としての土木関連、公共投資というものが、どういう影響を受けてくると見ていらっしゃるのか。

先ほども、災害対策等は不可欠だから減らせないというお話があったかと思うんですけども。とは言え、人が集まる建設現場とか、つくりにくく、やりにくくなっていくだろうというのは、今後も続く可能性もあるのではないかとお見受けするんですが。

経済対策の仕方としての建設土木というものが、どういうふうこれから変わっていく可能性があるかと見ていらっしゃるのか。直接は関係ないとおっしゃるかもしれませんが、国内においてどう影響があると見ていらっしゃるのか、教えていただけないでしょうか。

奥田：今のご質問は、私が発言していいかどうかという難しいご質問なんですけども。

公共事業といいますか、われわれの業界といいいますか、こういったお仕事をさせていただいてる中で、長年いろいろな不況があったり、いろいろなときに、一番各地域で経済対策として少し公共工事に多めに発注をされて、地方を活性化するというような形での対策を打たれて、経済対策とされるというのが過去に何回もあったような経験はしております。

ただ、今回のコロナの感染拡大で緊急事態宣言などで自粛が続き、なかなか今後もうまく付き合いながら世の中を回して、経済を進めていくということになったときに、今までの、例えば震災とか災害とか、リーマンショックとかのときの経済対策と少し変わってくるかなという、個人的な思いはあります。

ですので、われわれにどういう影響があるか、どう考えるかは難しいんですけども、当面は豊富な手持ちもありますし、計画されている公共事業は継続もありますので、それについては粛々と進んでいこうと思っています。

ただ、経済対策として、新しくわれわれの業界にどういう影響が出てくるかということについては、なかなか現状で読みづらいのが率直な思いです。

サポート

日本	03-4405-3160	米国	1-800-674-8375
フリーダイヤル	0120-966-744	メールアドレス	support@scriptsasias.com



質問者：影響は出てくると見てらっしゃるということでしょうか。

奥田：国については、ある意味、経済対策として仕事が増える可能性もあると思っています。地方自治体もそうなんですけども。ただ、少し時間がかかるのではないかなと、地方自治体についてはそう考えています。マイナスばかりではないと思います。

質問者：分かりました。ありがとうございます。

司会：それでは、ちょうど定刻となりました。以上をもちまして、株式会社不動テトラ様の IR ミーティングを終了させていただきます。

皆様、ご参加いただきまして、誠にありがとうございました。

[了]

脚注

1. 音声不明瞭な箇所に付いては[音声不明瞭]と記載

サポート

日本	03-4405-3160	米国	1-800-674-8375
フリーダイヤル	0120-966-744	メールアドレス	support@scriptsasias.com

免責事項

本資料で提供されるコンテンツの信憑性、正確性、完全性、最新性、網羅性、適時性等について、当社は一切の瑕疵担保責任及び保証責任を負いません。さらに、利用者が当社から直接又は間接に本サービスに関する情報を得た場合であっても、当社は利用者に対し本規約において規定されている内容を超えて如何なる保証も行うものではありません。

本資料または当社及びデータソース先の商標、商号は、当社との個別の書面契約なしでは、いかなる投資商品（価格、リターン、パフォーマンスが、本サービスに基づいている、または連動している投資商品、例えば金融派生商品、仕組商品、投資信託、投資資産等）の情報配信・取引・販売促進・広告宣伝に関連して使用してはなりません。

本資料を通じて利用者に提供された情報は、投資に関するアドバイスまたは証券売買の勧誘を目的としておりません。本資料を利用した利用者による一切の行為は、すべて会員自身の責任で行っていただきます。かかる利用及び行為の結果についても、利用者自身が責任を負うものとします。

本資料に関連して利用者が被った損害、損失、費用、並びに、本資料の提供の中断、停止、利用不能、変更及び当社による本規約に基づく利用者の情報の削除、利用者の登録の取消し等に関連して会員が被った損害、損失、費用につき、当社及びデータソース先は賠償又は補償する責任を一切負わないものとします。なお、本項における「損害、損失、費用」には、直接的損害及び通常損害のみならず、逸失利益、事業機会の喪失、データの喪失、事業の中断、その他間接的、特別的、派生的若しくは付随的損害の全てを意味します。

本資料に含まれる全ての著作権等の知的財産権は、特に明示された場合を除いて、当社に帰属します。また、本資料において特に明示された場合を除いて、事前の同意なく、これら著作物等の全部又は一部について、複製、送信、表示、実施、配布（有料・無料を問いません）、ライセンスの付与、変更、事後の使用を目的としての保存、その他の使用をすることはできません。

本資料のコンテンツは、当社によって編集されている可能性があります。

サポート

日本	03-4405-3160	米国	1-800-674-8375
フリーダイヤル	0120-966-744	メールアドレス	support@scriptsasias.com